
デザートバイキング

珊瑚一条

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デザートバイキング

【Nコード】

N7217B

【作者名】

珊瑚一条

【あらすじ】

今日の空前なデザートバイキングブームの中、俺は彼女―朱美にデザートバイキングに誘われた。

『デザートバイキング 90分 1,500円
カップルや夫婦、友人同士もOK!!』

こんな看板を見て、博司は呆れ返っていた。

「ねえ、朱美のいう”バイキング”ってこのこと・・・?」

隣に立っていた巻き髪の子——応彼女の朱美に聞いた。

「勿論よ、付き合ってくれるわよね?」

はあ、これだから女は・・・

俺はひそかに先程財布の中身を確認したのだが、3,000円と少ししか入っていなかった。

危うくとんだ目に遭うところだったわけだ・・・。

『次のお客様!』

!!

もう俺たちの番なのか！

さっき並んだばかりじゃないか、最後尾に！！

まあそれはさておき、俺たちは一番奥の窓際の席に案内された。

店内はどちらかというと小奇麗で、シックな感じにまとめられていた。

ガサツな感じのBGMではなく、ムード系のBGM。

気のせいか、店員の格好も清楚感がある。

「気に入った？」

朱美はるるん気分でクロスを広げている。

っておい、デザート取りに行かないのかよ？

「うん？デザートなら博司、先に行つてきてえ」

いや・・・笑顔で言われなくても行きますけど・・・そもそも誘ったの朱美だろ？

「いいじゃん、早くう！朱美も行きたいんだからあ・・・あ、ほらあ、フランクワーズケーキ！」

まったく・・・これじゃあ話にならないな・・・

「じゃ、俺取り行ってくるわ」

「うん、じゃあ飲み物頼んどくねえ!」

大げさにバイバイする朱美―。

まったく、付き合い始めて今日ほどテンションの高い日、あったかな？

・・・

バイキングスペースには朱美の言ったフランボワーズケーキをはじめ、ムース、プディング、ケーキ、アイス、ババロアなど信じられないくらいの種類デザートがこれでもか!と盛られていた。

けれどもっと信じられなかったのは・・・

お、男ばかり・・・？

そう、店内を見渡すと女の子はほとんど朱美同様、席に座っている。

な、なんじゃこりゃ？

ドン――

「あ、すみませー」

「博司！」

「ゆ、祐二！」

「なにやってんだよ？ってバイキングか」

「祐二こそ・・・」

「俺はさ・・・彼女に誘われてじゃなくて、彼女を誘って」

「へえー。祐二ってバイキング趣味なのか？」

「いや・・・そうじゃなくてさ」

「え、じゃあ？」

「ところでお前は彼女―朱美ちゃんだっけ、に誘われて来たわけ？」

「うん、そうだけどー」

「じゃあ話が早いや」

「お待たせー」

「あー、博司遅かったじゃんーってたったこんだけ？」

「うん・・・喋りこんでたらつい・・・」

「もうー、バイキングはモトとらなきゃあ」

そう言うんじゃあねと軽く手を振って、朱美はバイキングスペースに向かっていった。

「あの一、すみません・・・」

「はい、なんででしょう?」

俺が声をかけたのは若い女店員。

「これで・・・」

そう言つて俺は6万円と1枚の紙切れをを差し出す。

「『これで』何を？」

「手数料込みです。ココに書いてあること―暴いてもらえますか？
どんな形でもいいですから」

暫くの間があり、分かりました、と女店員は笑つてそれらを引き取
つた。

「おまたせー！」

朱美は両手に大皿を持ち、その上に半端ない量のデザートを盛つて
いた。

「あーっ、博司、もうお皿空っぽじゃん！取ってきて良いよお？
あ、サワー、おかわりするって飲んでないじゃん・・・」

「ひろ・・・し・・・？」

ニヤリ

「え．．．？」

「本条朱美サン、アナタ、罪ヲ犯シマシタネ？」

「え．．．え、え？」

「本条朱美、ココ『デザートパーラー』ニテ恋人安川博司サンヲ毒殺シヨウト試ミ、サワーノ中ニMGBヲ投入。以上八共謀罪ニ該当スルトミナシ、現行犯トシテ逮捕スル」

「そ、そ、そんなわけじゃない！」

「ナラバコノグラス内ノサワーヲ才飲ミ下サイ」

「わ、分かったわよ．．．う、裏切った博司が悪いんだからあ．．．あ．．．」

パリーン

「本条朱美19歳、3時04分52秒、死亡ヲ確認。安川博司ニ対スル共謀罪ノ為、自ラ毒物ヲ投入シタ飲料ヲ飲ミ、自滅。コレニヨリMGB投入ノ事実ヲ裏付ケタ」

博司はマイクで拾ったその声を聞いて満足していた。

「な？だから言ったら、彼女は浮気してたんだよ、それも一端のI
T社長だかなんだかとさ」

「ああ、らしいね。俺を殺そうとしていたんだし」

「そうさ、危ないところだったろ？」

「それにしても、祐二、お前彼女は？」

「ああ、アイツ？アイツは今頃店内でサヨウナラ、かな」

「え・・・『サヨウナラ』って・・・？」

「俺の彼女の場合はさ、博司においての俺みたいにチクれる奴がい
なかったからね」

「じゃあ今頃・・・」

「そうさ、MGB入りのコーヒーでも飲んで、お陀仏だろうねー」

実際90分もかからない、だからだったのだ・・・

『デザートパーラー』―表向きはカップルや夫婦、友人と連れ立っていける気軽な”デザートバイキング”

けれどその裏に隠された目的を知らず、今日も情報誌は書きたてる。

『空前のデザートバイキングブーム!!』と。

そして、それとは何の関係もないようにテレビは連日、何人もの行方不明者を放送する・・・

（後書き）

完読、お疲れ様です

つつい長々と書いてしまいました・・・。
いかがでしたか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7217b/>

デザートバイキング

2010年10月15日22時42分発行